

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第170号(通巻第237号)

---

2019年1月30日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790  
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp  
URL:http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

## ■「若手教員学習会（中北地区）」が開催されました

今年度から山梨大学教育学部が推進している「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業（平成30年度文部科学省委託事業）」の一つである「若手教員学習会」が、峡東地区、峡南地区、富士・東部地区に続いて、今月中北地区において、1月17日（木）に開催されました。

「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－」と題して、敷島総合文化会館大ホールにおいて、初任者からベテランまで地区の教員167名が参加し、充実した学習会を行うことができました。その内容を簡単に御紹介します。

まず、山梨大学の理事・副学長であり、OPPA（一枚ポートフォリオ評価）の開発者である堀哲夫先生から、OPPA論の概要説明がありました。続いて、OPPAの理論・実践の第一人者である、埼玉大学准教授の中島雅子先生から、「楽しい評価の話」と題して、OPPAの機能や、小学校道徳での実践事例の紹介などがあり学習を深めました。最後に、参加者一人一人が、本日の学習会のOPPシートを作成し、自らの変容を確認することができました。

今年度の「若手教員学習会」の最後の開催となりましたが、これからの教育評価の柱ともなるべきOPPAについて、わかりやすくまた楽しく学ぶことができました。

来年度は、本学習会が県教育委員会との共催となる予定です。さらにパワーアップした有意義な学習会になるよう取り組んでまいりたいと思います。

[受講者のOPPシートから]

- 初めは子どもの成長を引き出すことについて、子どもひとりひとりの考えが思い浮かばなかった。自分達は（親でも価値観や考え方は自分とちがうのに）わかっている、それが子どもに対してとなるとストンと抜けていたことに、自分で驚いた。その子の考えが一目でわかるシートはとてもおもしろい、興味深いと思った。
- 特別支援学級担任がキャリアの二分之一、現在通級指導教室担当のため、「通級児童こそメタ認知能力を身につけるべきではないか」「ポートフォリオをつみ重ねることで、指導者がかわっても一貫した指導ができるのではないか」と思って参加しました。やはり期待通りの内容でした。通級だと一つのテーマについて何年にもくり返し扱うこともあります。児童に自分の考え方の変容、考え方の癖などに気づいてもらうためにも、活用していきたいと思います。
- 本質的な問いを考えることが、教師の力の見せ所なのかなと感じた。
- 初めは漠然と「わかる授業づくり」と書きましたが、そのためには子どもたちの変容をみとる方法があり、それによって授業改善することでより目の前の子どもたちに合った「わかる授業づくり」ができるんだということに気づけました。道徳の学習にあっていいるなど感じました。自分の変化がわかることで、子どもたちの意欲も高まりそうです。

## ■ 第32回教育フォーラム開催報告

山梨大学教育学部主催（山梨県教育委員会との共催）の第32回教育フォーラム『「考える道徳」の

授業づくり-内容・方法・評価を捉えなおす-』が平成 30 年 11 月 19 日（月）、山梨県立図書館 2 階多目的ホールにおいて開催されました。コーディネーターの高橋英児氏（山梨大学大学院教育学研究科・准教授）を中心に、山梨県内で道德教育の実践・研究に取り組んでいる 3 名をパネリストにお迎えし、新学習指導要領における道德の教科化を受け、価値を教えるという視点だけでなく、ただの規範意識の育成にならないような道德教育とするためにはどうしたらよいかを論点に、授業実践例の紹介とそれを受けての議論が展開されました。

堀内一義氏（富士吉田市立下吉田東小学校・校長）は「考える道德」の授業づくり～県研究指定校の実践紹介と課題～と題して道德教育研究推進校としての実践例を具体的に紹介されました。評価の充実のためには授業の充実が欠かせないこと、評価のための日常の学習の様子を蓄積していくこと、確かな指導観をもち、その授業のねらいを明確にすることの重要性を指摘すると共に、特別支援学級への対応や道德教育充実による学校経営上の課題について述べられました。中國昭彦氏（甲府市立千塚小学校・校長）からは「全校で取り組む OPPA を活用した道德の実践～評価・授業改善・カリキュラムマネジメント～」と題して OPPA を使った道德教育の実践報告がありました。道德教育に係る評価等のあり方に関する専門家会議の報告「大きくくりなまとまり・書きためた・年間を通した・励ます」に着目し、道德の授業実践における OPPA の評価・授業改善・カリキュラムマネジメントへの活用やその有効性について紹介されました。梶原郁郎氏（山梨大学大学院教育学研究科・教授）からは、気持ち主義の授業から考える授業に転換していくには、どのような内容（本質的な問）と方法を作っていけばいいのか、教材「うとがりあ」等を取り上げながら、考える道德の実践に向けた視点が示されました。社会の事柄を児童が考えながら認識するための内容と方法が、規範意識形成の土台として提示されました。

その後、参加者とパネリスト間で質疑応答を行い、ワークシートの書かせ方、OPP シートの授業への導入時の工夫、中学校公民科と道德科とのかかわり等について理解を深めました。さらに OPPA の他県での導入状況、道德の授業評価における言語分析と行動観察の視点、重要なのは行為の選択よりも根拠・理由といった意見も出されるなど、道德の授業づくりに向けて現状や課題を共有し、明日の実践につながるような有意義なパネルディスカッションとなりました。

次回の第 33 回教育フォーラムは「子どもの育ちと外国語教育～幼・保・小を繋げて考える」と題して、平成 31 年 2 月 18 日（月）18 時から山梨県立図書館 2 階多目的ホールにて開催いたします。詳細については実践センターのホームページやポスター等をご覧ください。



## ■ 大分大学の視察報告

教職支援室では、山梨大学地域連携事業支援プロジェクトとして「教員志望大学生による小中学校への支援事業」に取り組んでいます。このプロジェクトの一環として、毎年、他大学における教育ボランティア事業を調査し、本学部における教育ボランティア活動の内容改善や充実につなげていきたいと考えています。

今年度は、平成 30 年 12 月 4 日（火）に教職支援室の教員 3 名（澤登義洋教職支援室長、角田修客員教授、秋山光永客員教授）が大分大学教育学部附属教育実践総合センターを訪問し、「まなびんぐサポート」という学習の場のデザインを中心に教育ボランティアへの取組状況等について聞き取り調査を行

いました。大分大学では大分市教育委員会と連携し、学部教員が中心となってきめ細かな指導が行われており、学校現場と学生との互惠関係に基づいた有意義な教育ボランティア活動が行われていることがわかりました。たいへんお忙しい中、対応してくださいました大分大学附属教育実践総合センター長の甘利弘樹教授をはじめ、渡邊和志准教授、麻生良太准教授、森下覚准教授、清水良彦講師には心よりお礼申し上げます。

#### 【調査内容】

- 1 大分大学の概要
- 2 「まなびんぐサポート」事業について
- 3 事前・中間指導のあり方
- 4 教育委員会との連携のあり方
- 5 学校や学生の声
- 6 学生の参加数・割合
- 7 成果と課題
- 8 その他



## ■ 金沢大学の視察報告

山梨大学教育学部では現在、学生の教員就職率向上に向けた取組を推進しており、実践センターもこれに積極的にかかわっていきたいと考えています。本センターが中心となって進めている全学プロジェクト「山梨大学教師塾プログラム」も今年で5年目を迎えたことから、来年度以降の新たな展開を検討するため、他大学の取組を調査することとしました。

平成30年12月17日(月)に附属教育実践総合センター教員2名(山本英寿教授、猪股真弥准教授)が金沢大学学校教育学類附属教育実践支援センターを訪問し、金沢大学における教職支援の取組について聞き取り調査を行いました。金沢大学では石川県教育委員会との緊密な連携のもと各種のユニークな取組を推進しており、山梨大学教育学部における教職支援活動の今後の展開を考えていくうえで多くの示唆を得ることができました。御多忙の中、対応してくださいました金沢大学学校教育学類附属教育実践支援センター長の山本卓教授、原田克巳准教授、加藤隆弘准教授には心よりお礼申し上げます。



#### 【調査内容】

- 1 教員就職状況  
教員就職(合格)率の要因、教育採用率の推移、今後の教員採用の見通し、入試の工夫等
- 2 教員養成におけるの特色  
組織概要、教育課程(カリキュラム)の特徴、改組状況等
- 3 教職支援の取組と附属教育実践支援センターのかかわり方  
教職支援の取組、体制、教育実習、模擬授業室、教職支援室、教育ボランティア活動等
- 4 その他

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見るすることができます。